

ポーラ美術館コレクション選

ポーラ美術館（箱根・仙石原）

23. 07. 12～12. 03

今回の展示は、新収載となる「メアリー・カサット《劇場にて》」をはじめ、「モリゾ、モネ、ルノアール」といった当館の西洋絵画コレクションに加え、「リヒター」など近年新収蔵した現代の作品を通じ、コレクションの広がりを観賞することができる。

「メアリー・カサット」は、光と瞬間の近代生活を探求し描いた女性印象派の画家で、その繊細さと落ち着きのあるのが魅力的で、作品の多くは“母と子の間の優しさなど家族の情景が主題となっている”のが大きな特徴である。

メアリー・カサット 《劇場にて》 1878～9 頃 パステル グアッシュ



画伯「カサット」(1844～1926)は、19世紀後半におけるパリの画壇で前衛の画家として活躍した数少ないアメリカ人の女性画家である。

彼女は、1887年の「第3回印象派展」に「ドガ」の紹介で初めて参加して以降、大胆な構図、日本の版画の非対称性や高いところから見おろす視点、近代生活の主題を取り入れた絵画表現を追求して高い評価を獲得したことで名高い。

本作品は、印象派が取り上げた近代生活の主題である“パリのオペラ座を描いたシリーズの1点”である。

ベルト・モリゾ 《ベランダにて》 1884年 油彩/カンバス



印象派の画家たちは、伝統的な絵画の制作場所であるアトリエから屋外へ飛び出し、外光の下で風景や街の人々を色鮮やかに描いた。

しかし、大半の女性は気軽に外出することができなかつたようで、女性の画伯は柔らかな光に包まれたサンルームで、机に向かうふっくらとした頬を覗かせるモデルの少女(画伯の娘)が白い花らしきものを手にしている光景を描いた作品である。